



リレーエッセイ執筆を機に考えたこと

本記事をご覧いただいている皆さま、こんにちは。株式会社イアスの西口さんからバトンを受けて寄稿させていただきました、大畑昌輝と申します。所属はつくばにあります、国立研究開発法人産業技術総合研究所計量標準総合センター物質計測標準研究部門無機標準研究グループと言う大変長い名称で、主研究業務は元素標準液の開発に資する原料物質（主に金属）の純度評価のための不純物分析を行っております。中央大学理工学部応用化学科の古田直紀先生の研究室出身で、先生に師事して以来、誘導結合プラズマ質量分析法（ICP-MS）などのプラズマ分光分析法を用いた微量元素分析手法の開発およびその応用について研究を行って参りました。現所属の主研究業務にも（恐らく）活かすことができているので、その点では当該研究テーマをぶれずに(?)継続することができているということで、大変ラッキー(?)だったと感じています。前記事執筆者の西口さんとは2006年くらいから研究協力関係にありますが、それを通じて勝手ながら大畑にとって数少ないお友達のお一方だとも思っている方でございます。想像するに、西口さんは、ご自身の研究開発について、ご自身の執筆記事内でも熱く語られたことと存じますが、西口さん等が開発されたものは、ICP-MSにとって当時なかなか出てこなかった新技術開発で、大変画期的なものでした。そういう新技術開発に関する基礎および応用研究に、何故かお誘い頂き、かかわらせて頂けましたことも、大畑にとっては大変ラッキーだったと思う次第です。

さて、本リレーエッセイの執筆に際し、「何を書こうかなあ?」と、これまでの執筆者の方々は、きっと頭を悩ませたことだと思います。執筆するからには、読者にとっても執筆者にとっても「良い記事にしたい」、「他の記事とは違う面白い内容にしたい」などと努められたことかと思えます。かく言う大畑も、その様な思いで現在本原稿に取り組んでいる次第ではありますが、なかなか良い案が浮かびません。。。。こういう時に気の利いた文章がすぐに浮かぶような自分でありたい。。。。など思いを馳せておりましたところ、そう言えば、弊所にはなかなかお話が上手な方が多数いるなあという思いに至りました。残念ながら、その面白い話の具体例の詳細までは覚えていないのですが、その場の雰囲気に適したお話をされる方々が（何故か?）多い様に感じます。大学の先生方ならいざ知らず、弊所の様な研究所に何故だろう? と考えましたが、やはりお話が上手な方々はマネジャー級の方々に多く見られ、対外的にも対内的にも上手にお話

することを求められている方々に多いと言うことに当然ながら気づきました。とは言え、それにしても合理的にお話をする人達が多い様にも感じます。。それは理系特有なのか。。? そんなことを考えていましたが、学会など対外的なプレゼンテーションなどを通じ、それなりに練られてきた結果、お話が上手になっている、合理的な話ができるようになる（はずだ）と言う様な想いに至ることとなりました。そう言えば学生当時、大畑が古田先生からご教授頂いたプレゼンテーションスタイルには、三つのキーワードがありました。一つ目は、アイコンタクト。聴講者と時折目を合わせることで、相手の注意を引くこと。二つ目は、ボディランゲージ。これも聴講者の関心を引くテクニックだと言う理解ですが、自分の発表のリズムを取るような感じも持っています。三つ目がボイカルバラエティ。上手に合理的に且つ時折ユーモアを織り交ぜながらお話をすることですが、これは正しく且つ合理的に事実を紹介・説明しながらも、聴講者の関心をさらに引くというテクニックだと言う理解です。ちょっとだけ付加価値を加えることもできるかもしれません。使用する言葉もそれなりに適切なものを選ぶなくてはなりませんので、そのためにそれなりの勉強も必要です。おおよそ20年前にご教授頂いた内容ですが、現在でも利用できる考え方、且つ、テクニックだと思えます。そんなことを思い出した本リレーエッセイ執筆でした。

そういうことで、無事に(?)本記事タイトルについても触れることができましたので、そろそろお開きに、次の執筆者の方にバトンをお渡ししたいと思えます。次の執筆者は、東京大学の平田岳史先生です。専門分野ではもちろん大変ご高名の先生で、大畑より年長の方ですが、現在の先生の年齢になっても絶対追いつけないなあと感じる、大畑が尊敬する先生のうちのお一方です。大変社交的で乗りが良く、大変アクティブな先生です。プレゼンテーションも大変上手です!! 何がきっかけか忘れてましたが、以来何故か仲良くさせて頂いて参りました。こういう縁も大畑にとって大変ラッキーでしたね。今回の寄稿について大畑から打診させて頂いた際にも、すぐにお引受け頂きました。そう言うことで、取り留めもない記事で大変恐縮ですが、平田先生にバトンを引き継ぎ、お開きにさせて頂きたいと思えます。それでは平田先生、よろしくお願い致します!!

[産業技術総合研究所計量標準総合センター 大畑昌輝]